

課題対応取組み報告書②

【共通】

名称	鶴見区地域包括支援センター
提出日	令和6年7月1日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	<input type="checkbox"/> 地域や専門職とのつながり等	<input type="checkbox"/> 社会資源の創設（居場所づくり等）
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症高齢者等の支援	<input type="checkbox"/> 自立支援・介護予防・健康づくり等
	<input type="checkbox"/> その他（ ）	
活動テーマ	本人の拒否、家族の理解不足により、支援が中断したケースへの関わり、支援者間の連携	
地域ケア会議から 見えてきた課題	初期集中支援が終了し、居宅介護支援事業所に引継ぎを行ったが、本人の拒否と家族の理解不足により支援が中断したケースが多数あることがわかった。支援が中断した後に誰も関わりを持たず、初期集中支援としても対象から外れていて情報が入って来なかった場合に、支援が必要にも関わらず、誰も支援していない状況になってしまうことがある。	
対象	引継ぎ先の居宅介護支援事業所、連携する医療機関などの支援に関わる機関	
地域特性	大阪市24区内最も東に位置し、守口市・大東市・門真市・東大阪市に隣接している。高齢化率が最も高い地域は34.7%と大阪市平均よりも高いが、区全体の高齢化率は22.9%という格差がある。連合は12あり、町会加入率は平均71.8%となっている。北に地下鉄、南はJR、中央部はバスの交通機関で子育て世代が多いのも特徴である。	
活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・支援介入が困難、もしくは支援が中断してしまった利用者への居宅介護支援事業所の相談先として認知症地域推進員の役割を説明し、支援を途切らせない体制を構築する。 ・介護保険制度のみでは利用者の真のニーズに応えることができないため介護保険制度に依存しない、認知症の方への居場所づくりをする。 ・支援困難症例には医師との連携が不可欠であるため、主治医との連携を密に行う。 	
活動内容 (具体的取組み)	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネジャー連絡会などを通し認知症地域推進員の役割を周知する。また、引継ぎ時にはその役割の説明だけでなく、支援に悩んだ場合に相談できる体制を構築するとともに圏域の包括・ランチと情報共有を行い、ケアマネジャーへの後方支援を依頼する。 ・生活支援コーディネーターと協働し、高齢者の居場所へつなぐとともに、立ち上げの後方支援を行う。 ・認知症地域支援コーディネーターと連携し、ちむオレンジとして活動するボランティア団体などつないでいく。 ・個別ケースの地域ケア会議に出席し、ケアマネジャーや他の支援機関と課題を共有し、支援方策を検討する。 ・医師に対し、支援に対する相談のみにとどまらず、支援の進捗の報告を行い、連携を密に行う。 ・支援困難症例をふり返るため、認知症初期集中支援チーム関係者会議に議題として提出、意見交換を行う。 	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	<ul style="list-style-type: none"> ・介護保険制度に依存しない、認知症の方への居場所づくりに関しては、ランチと生活支援コーディネーターの協力のもと、ボランティアサークル（ちどりフラワーガール）を立ち上げ、認知症の方の参加支援が実現できた。 ・介護保険事業所連絡会や在宅医療・介護連携相談支援室が開催する「多職種事例検討会」に参加したが、ケアマネジャー連絡会までは参加できず、認知症地域推進員の役割を伝えることはできなかった。 ・地域ケア会議に出席し、課題の共有と支援方策を検討することができた。 ・医師との連携は密に連携するように努めたが、医師により連携の仕方に課題を感じたので、関係者会議にて意見交換を実施し、今後の取り組みの参考とした。 	
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の課題としては独居で未受診や、受診が途絶えていること、家族の課題としては理解不足により受診の促しをせず放置、そのため認知機能がかなり低下している状態で発見されることが多い。認知症初期集中支援チーム関係者会議での意見交換で、医師から受診が途絶えている患者の後追いはしないし、できないという意見があったので、地域福祉コーディネーターをはじめとする地域住民による見守りや、金融機関、商店などによる発見が重要である。 ・認知症初期集中支援チーム員会議の意見交換にて、薬剤師より連携が弱いと意見があったため、薬剤師との連携の強化が必要である。 	
※以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和6年7月17日（水）	
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	<input checked="" type="checkbox"/> 地域性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続性 <input checked="" type="checkbox"/> 浸透性 <input checked="" type="checkbox"/> 専門性 <input checked="" type="checkbox"/> 独自性	
評価できる項目（特性） についてのコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症高齢者の居場所づくりの活動として、ボランティアサークル（ちどりフラワーガールズ）を立ち上げる等、積極的に実施しており、今後は活動を発展させ、継続可能と思われる。 ・主治医や薬剤師等との連携を強化できるような活動し、課題解決に向けた活動に期待したい。 	
* 今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。		